

令和6年度香川県特色ある体力づくり推進学校

三豊市立吉津小学校
 <児童数 140人 8学級 >

推進上の課題

- ▲ 体育授業についてのアンケート調査では、高学年児童の3分の1程度が「授業があまり楽しくない」と回答している。楽しい体育の授業をめざして、体育の授業改善をする必要がある。
- ▲ 外遊びが好きな児童が多く、約77%の児童が休み時間には運動場に出て、サッカーやドッジボールなどの外遊びをしているが、約23%の児童は休み時間にほとんど室内で過ごしている。
- ▲ 令和5年度香川県体力・運動能力調査結果によると、ほぼ全ての学年で県の平均値を上回っているが、特に、上体おこし（筋力）、長座体前屈（柔軟性）、立ち幅跳び（瞬発力）などが県平均を下回っている学年があった。

重点目標と全体計画

【重点目標】

- 全ての児童（特に運動に苦手意識を持っている児童）が、運動やスポーツを「楽しい」と感じるために、体育の授業改善をする。そこで、校内研究主題「学びにときめき、つながり合う児童の育成」を設定し、サブテーマを「運動の特性に触れ、対話を通して主体的に学ぶ体育授業」として取り組み、児童が思わずやってみたくなる場を設定し、他者とのかかわりや対話を重視した授業づくりを目指す。
- 全ての児童（特に運動が苦手と感じている児童）が体育的活動や外遊びなどについて、「楽しい」活動になることを目指す。

【全体計画】

- 1 体育の授業改善（校内研修の充実）
 - 年間を通して全学年の体育の授業改善に取り組む。
 - ・ すべての学年において体育の研究授業を行う。そのために校内研修の中で事前研修・授業討議会の時間も設定して行う。
- 2 体育的活動（健康タイム）の充実
 - 年間を通して毎週金曜日の朝の「健康タイム」の内容を充実させ、多様な動きを経験させる。
- 3 外遊びの奨励
 - 児童主催で、昼休みに全校生が外で楽しく運動できるイベントを企画・運営し、運動の日常化につながる取り組みを行う。

体力づくりの取組状況

【体育の授業改善】

- 1 単元名 ゲーム（ゴール型ゲーム）
 つなげパス！全員がストライカー！「ミニサッカー」
- 2 実施期間 令和6年6月
- 3 対象者 第3学年 26名
- 4 工夫点及び概要
 - ・ 運動が苦手な児童が通常のサッカーボールで「ミニサッカー」をしようとした際に、「ボールが転がり過ぎてうまくコントロールできない」「当たると痛い」などの困り感がある。この困り感を解決するために、通常のサッカーボールを新聞ボールに変更し、運動が苦手な児童が苦手意識を持つことなく学習に取り組むことができるように工夫した。新聞ボールは、「転がりすぎ

ない」「当たってもいたくない」という良さがある。そのボールの重さや大きさなどは何度も試作を重ねて児童が活動しやすいように工夫した。

- ・ コートは、通常のバスケットのコート半面を利用し、同じチームの児童同士がうまくパスをつなぎながら攻撃ができるように工夫した。
- ・ ルールは、キーパーゾーンの前に攻撃側しか入れないフリーゾーンを設け、ボールを蹴ることが苦手な児童も落ち着いてシュートができるように工夫した。
- ・ サッカーを基にした易しいオリジナルゲームとして実施したため、ルールについて共通理解が必要な時や困ったことがあった場合は、学級全員で話し合い、全ての児童が主体的に取り組むことができるようにした。
- ・ 活動の様子



【ゲームをしている様子】



【自作した新聞ボール】



【作戦ボードを使って対話している様子】

【体育的活動（健康タイム）の充実】

- ・ 日時または実施期間： 令和6年5月10日（金）～ 令和7年2月28日（金）予定
- ・ 対象者： 全学年
- ・ 活動概要及び工夫点（毎週金曜日 朝の時間で実施）

毎週金曜日の始業前の時間（15分間）における健康タイムの内容について、本校の児童の課題である「柔軟性」や「瞬発力」などの運動を焦点化し取り組むとともに、多様な運動に取り組むことができる場として設定している。

さらに、すべての運動の基礎となる「走る運動」、「跳ぶ運動」、「投げる運動」、「器械運動」などの場を設定し、全校生を色別4色の縦割り班でローテーションしながら全ての運動に取り組むようにした。

・活動の様子



【跳ぶ運動をしている様子】



【投げる運動をしている様子】



【器械運動をしている様子】



【ストレッチをしている様子】

【外遊びの奨励】

1 活動名：昼休みの全校遊びタイム

余暇活動の時間である昼休みの活動については、持続可能な取組みを目指すために、児童会や体育委員会などが企画・運営する活動を中心にして次のような取組みを行っている。

① 吉津オリンピック

- ・日時： 令和6年6月25日（火）13：00～13：20 今後継続していく
- ・対象者： 全学年
- ・活動概要及び工夫点（昼休みの時間で実施）

運動場や南庭に全校生が楽しんで運動遊びができるように種目を設定し、全学年の縦割り班で自由に楽しむようにした。種目は、「ボールシュート」「うんてい」「タイヤ登り」「ジャベボール入れ」「鉄棒遊び」「ストラックアウト」「的あて」「ドッジビー投げ」「ミニハードル」とし、自分の興味・関心に応じて運動を選択し、何度も挑戦できるようにした。

・活動の様子



【ストラックアウトをしている様子】



【ドッジビー投げをしている様子】

② 全校鬼ごっこ

- ・日時： 令和6年5月23日（木）13：00～13：20 今後継続していく
- ・対象者： 全学年
- ・活動概要及び工夫点（昼休みの時間で実施）

宇宙人に捕まった校長先生を助けるためにという設定で、全校生と宇宙人（教職員）で鬼ごっこをする。

・活動の様子



【校長を助けようと児童会が呼びかけている様子】



【鬼（先生）を追い回している様子】

③ 全校しっぽ取りゲーム

- ・日時： 令和6年9月27日（金） 13:00～13:20 今後継続していく
- ・対象者： 全学年
- ・活動概要及び工夫点（昼休みの時間で実施）
運動場で全校が縦割り班対抗のしっぽ取りゲームを楽しむ。
- ・活動の様子



【成果】

- 体育授業についてのアンケート調査では、令和5年度7月の高学年児童は、約28%が「楽しくない」と回答していたが、令和6年度7月は、約16%に減少した。全校児童全体でも「楽しくない」と回答した児童の割合は、約12%から約8%に減少した。これは、運動に苦手意識を持っている児童を重点化し、ルールや教材などを工夫して授業実践している成果であると考えている。
- 昼休みの外遊びについて、全校生が自分の興味関心に応じて遊びを選択できるようにしたり、全校生で取組む外遊びを実施したりしたことにより、外遊びに消極的だった児童が、「みんなと遊べて楽しかった。」という感想を持ったことが成果であると考えている。さらに、このような昼休みの外遊びを奨励する取組み実施した際には、外遊びの達成率が100%になったことも成果である。

【課題】

- 体育の授業についてのアンケートでは、全校生で約8%の児童が「楽しくない」と感じていることから、全ての児童が体育の授業を主体的に取り組み、「楽しい」と感じることができる授業実践を目指して、引き続き、研究・実践を続けていく必要がある。
- 健康タイムや昼休みの全校遊びが一時のイベントにならないよう、今回企画運営した児童会を中心にして、このような取り組みの継続していく。
- 体力・運動能力調査について、具体的な数値において評価できていないが、今後公表される国や県の令和6年度調査結果をもとに分析し、今後の体力向上の取組みに生かしていくことにしている。